

曲目解説

～パトリオティック・パレード・シーケンス～

パトリオティック・パレード・シーケンス「PATRIOTIC PARADE SEQUENCE」は3曲のマーチ「America, The Beautiful/Battle Hymn Of The Republic/My Country,'Tis Of Thee」からなる曲で、各曲間にドラムマーチが挿入されます。演奏会のオープニングや、パレードなどに適した1曲といえます。

～主よ、人の望みの喜びよ～

「主よ、人の望みの喜びよ」は、教会カンタータ第147番《口と心と行いと生きざまもて》の第一部、第二部をしめくくるコラール（賛美歌）の合唱です。聖母マリア訪問の祝日（7月2日）のために旧作を改作したもので、全10曲、二部仕立てになっています。

初演は1723年7月2日、のちにイギリスの女流ピアニスト、マイラ・ヘスによって、「（主よ、人の望みの喜びよ）」というタイトルのピアノ独奏曲に編曲されて有名になり、以後、原曲のオーケストラも単独で演奏されるようになりました。心洗われるような美しい旋律は、ひとつの旋律の陰に別の旋律が動いていく、音楽の父、バッハ得意のポリフォニー〔複数の独立した声部（パート）からなる音楽〕という手法で書かれています。

～2つのバガテル～

今年、没後10年になる吹奏楽の巨匠、アルフレッド・リードのオリジナル作品。「バガテル」とはフランス語で「小品」という意味で、ピアノ曲などのタイトルによく用いられます。はじめの楽章は「カンタンド（イタリア語で「表情豊かに」とか「歌うように」の意）」で、ゆっくりとした美しい旋律の楽章です。2つめの楽章は「スケルツァンド（イタリア語で「おどけて」の意）」で、6/8拍子のリズムカルな曲です。

～スパークリング・ノート～

若手作曲家、平木 悟氏が少人数で活動しているバンドに適した編成、1パート1名を想定し2010年に作曲しました。冒頭に示されたリズムを軸に、タイトルの通りエネルギーを持った勢いのある音を選んだそうです。

Tempo giusto-Tempo rubato- Tempo giusto の3つの部分からなり、最後に2部音符が一歩一歩踏みしめるように演奏されます。

～ヒット・メドレー ver.2015～

「RPG」はSEKAI NO OWARIの楽曲で、2013年に公開された映画『クレヨンしんちゃん バカうまっ!B級グルメサバイバル!!』のエンディングテーマとして作られました。メンバーのFukaseが書いた詞がもともとあったが納得できていなかったため、同じメンバーのSaoriに詞を依頼すると、サビの部分が良かったのでFukaseがAメロとBメロを書き直して詞が完成したそうです。そのサビは、2年前に、二人がバンドをやめるといふほどの大喧嘩をし、その後仲直りした後に浮かんできたので手紙のようになっているのだそうです。あったかいんだからあ♪」は、クマムシの楽曲で、デビューシングル。もともと自身のネタであり、それを歌にして作ったものである。唄うパートはほとんどがボケ担当の長谷川俊輔で、ツッコミ担当の佐藤大樹は歌詞の中にある「Yes!」のみ。

～レッツゴーヤング!!～

「赤いスイートピー」は、1982年1月にリリースされた松田聖子の8枚目のシングルです。松任谷由実さんよる、最初の提供曲だそうです。オリコン最高順位1位、'82年度年間7位と大ヒットを記録しました。まさにレッツゴーヤング世代の楽曲ではないでしょうか? 「ダンシング・クイーン (原題は *Dancing Queen*) 」は、スウェーデンのコーラス・グループ、アバが1976年にリリースしたシングルです。初めて披露されたのは、1976年6月18日のグスタフ16世の結婚披露宴の時だそうです。英語・フランス語・ドイツ語・スペイン語、スウェーデン語のヴァージョンが作られるなど、世界中でヒットしました。「いつでも夢を」は、1962年9月20日に橋幸夫さんと吉永小百合さんの歌唱によって発売された楽曲です。当時は両者とも多忙な日々を送っていたためスケジュールが合わず、別々にレコーディングした音源を一つにミキシングして発売したそうです。また、吉永さんの歌がオーケストラと合わず、やむなくピッチを上げて、オーケストラと合わせた、という話しも残っているそうです。累計売上は260万枚を記録、第4回日本レコード大賞の大賞を受賞し、1962年、とりわけ高度成長期を象徴する楽曲となったほか、長い期間、日本国民に愛された楽曲として、人気を保っています。最近では2013年の連続テレビ小説「あまちゃん」でも取り上げられました。

本日は、それぞれの楽曲で世代は違えど、時代ごとに様々な思いを巡らしながら聴いていただくと幸いです。